

様式 4

平成 29 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取西高等学校
 学校長 山本 英樹

評 価 日	平成 30 年 2 月 21 日 (水)	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>○アクティブラーニングの取り組みが広がり、主体的に学ぶ生徒が増えてきている。この取り組みをどのように発展させていくかが大切だと思う。その意味でルーブリック評価を全教科に広げることは画期的であり期待したい。</p> <p>○SGH での課題研究の取り組み、学校としてのノウハウも蓄積されてきた。今後はグループ毎の温度差がないよう研究を発展させることと、評価方法の精度を上げていくことが課題である。</p> <p>○あいさつ運動は素晴らしい取り組みである。あいさつが西高生の中で習慣化していくことを期待している。</p> <p>(2) 説明・公表について 特になし</p>	<p>○協同的な学びについて成果は上がっている。今後は探究的で深い学びにどう結び付けていくか、英語科だけでなく、全教科にわたってルーブリック評価ができるよう取り組みを進めていきたい。</p> <p>○継続して取り組みたい。</p> <p>○あいさつは学校の重点目標として取り組んでいる。今後とも生徒会執行部を中心として進めていきたい。</p>	
<p>2. 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について 特になし</p>		
<p>3. 取組改善のための提言</p> <p>○本日参観させていただいた「芸術合同授業」は素晴らしかった。できれば1年生だけでなく2年、3年にも芸術に触れる機会が持てるよう考えていただきたい。西高は立地的に恵まれていて、近くに博物館もある。この恵まれた環境を芸術教育のために活かしていただきたい。</p> <p>○SGH 事業での取り組みの成果を感じる。思索と表現を横断的に活用しながら、また5教科を英語と統合した CLIL 的アプローチをさらに発展させてほしい。</p>	<p>○博物館利用は芸術の授業だけでなく、地歴をはじめ他教科等でも行っている。今後ともこのような機会を増やしていきたい。</p> <p>○取り組みを進めていきたい。</p>	